

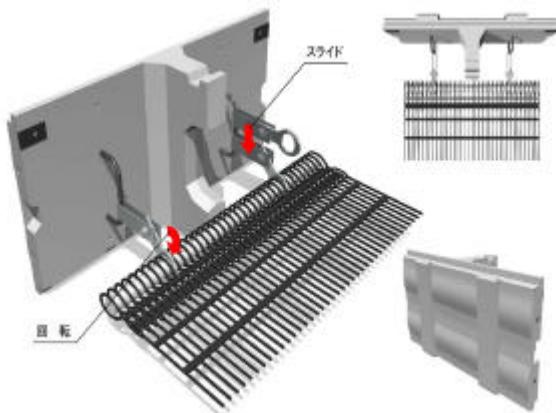
テンサー VIG 工法

概要

テンサーVIG工法とは、自立式コンクリートパネル（VIGパネル）を壁面工とし、面状ジオグリッド（テンサー）と連結したジオテキスタイル補強土壁工法です。テンサーVIG工法はコンクリートパネルと比べて壁面の剛性が高いことから、変形が小さく、景観性の優れた壁面とすることができます。

用途

- 道路擁壁
- 水辺構造物
- 仮設構造物



特徴

- 背面盛土に対する拘束効果が大きく、補強土壁の変形を抑えることができます。
- VIGパネル同士を上下、左右連結することで、壁面工全体の一体化、変形抑制効果が得られます。
- 連結金具がフレキシブル構造（スライド、回転機能）となっており、背面盛土の圧縮沈下に対して高い追従性を有しています。（連結方法特許取得）
- VIGパネルは垂直～1:0.3までの壁面勾配で自立性があります。
- 壁面勾配は垂直～1:0.5程度まで自由に設定可能です。
- VIGパネルの組立、設置等の施工性に優れています。
- VIGパネルは、背面盛土の土圧に対して安定であり、盛土材の敷き均し、転圧等の作業性に優れています。
- 鋼製壁面材（EXC、EXS、EGパネル）との組み合わせにより、急勾配盛土部の緑化が可能となり自然環境との調和が図れます。

実績

